

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見える所に貼り、常に心に留め実践出来るよう努力している。	事業所の理念及びユニット毎の理念を作成し、事業所玄関、各ユニットに掲示しています。また、朝のミーティングや毎月の全体ミーティングにて理念を確認する機会を設けています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加している。 また、地域の方も行事の度に声を掛けて下さる。	公民館で行われる地域のお茶の間クラブに毎月ご利用者と一緒に参加したり、町内の祭の神にも参加するなど地域との交流を行っています。また、近隣の保育園の運動会に見学に出かけたり、町内のゴミステーションの清掃も地域の一員として行っています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人を施設での行事の時に参加して頂いたりして活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議議事録を閲覧し、意見を受け止め対応に努力している。	運営推進会議には包括支援センター職員、区長、民生委員、ご家族代表などに参加していただき、2ヶ月に1度(奇数月)行われています。ヒヤリハット・事故報告などの状況報告や広報誌を配布するなどして事業所の実情をご理解していただいています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。 困難なケースについては相談に乗って頂いている。	介護高齢課や包括支援センターとはご利用者の状況に応じて連絡・相談が行える関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議で話し合ったりして、身体拘束をしないように務めている。 利用者様の人格を尊重し、危険回避に努めている。	身体拘束に関しては、外部研修参加者より職員会議にて研修内容の周知をしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で勉強する機会を設け、施設内での虐待は見過ごす事がない様に注意し利用様に寄り添う支援をさせて貰っている。	虐待の防止についても、身体拘束同様に外部研修参加者より職員会議にて研修内容の周知をしており、日頃から注意を払っています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で勉強する機会を設けている。各利用者様、ご家族様の対応が行き届いているので安心している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明をさせて頂き、理解をして貰っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話しやすいように環境作りに努めたり家族会、運営推進会議も活用し、意見箱の設置もしている。	ご家族とは面会時でのやりとりや、運営推進会議の場で意見収集をしています。また、9月には家族会も実施しており、多くの意見や要望を確認することができました。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の会議や日常にも朝のミーティング等で話せる様にしており、当ホーム単独でアンケートを行い改善に取り組んでいる。	年2回の管理者、主任、職員での三者面談、毎月の職員会議とユニット会議、日常業務でのコミュニケーション、必要に応じての個人面談を通じて、職員の意見や提案を運営に反映させる取組みがされています。また、11月には職員に対してアンケートにて満足度調査も行いました。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	順次スタッフのヒヤリングを行い、意見を吸い上げより良い職場作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある時は、案内文を回覧される。自発的あるいは業務内とし研修は全スタッフが受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村上、岩船地区グループホーム情報交換が定期的に行われている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、主任が面接して行っている。 初回面接の段階で安心出来るよう説明、対応させて貰っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくり傾聴し、十分納得して頂ける対応を心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを本当に利用可能の方が、話し合いをさせて貰い、必要に応じては他サービスの情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人個人の残存機能を活かし、各自役割を持って頂き生活して貰っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会しやすい環境作りに努め家族会も開催しました個人便りで1ヶ月の様子、体重、標準バイタル等を報告している。	ご家族にはホームでのご利用者のお誕生会に参加していただいています。2ヶ月に1度は事業所広報を作成し活動内容を伝えているほか、居室担当者が毎月ご家族にお手紙をお送りしご利用者の暮らしぶりを伝えています。	毎月居室担当者が作成するお手紙については、内容に職員間の差が見られましたので、記入内容の検討の機会を持たれることを期待します。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加する事で行っている。 自由に電話、葉書などを利用し交流を図っている。	近所の方や友人の面会も受け入れたり、個別の外出はできる限りご家族に協力をいただき、お墓参り・スーパーへの買い物・美容室などに連れて行って頂き、馴染みの関係を継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役になり利用者同志話せるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所と言う事では、お見舞いに行ったりするが、遠方の方には電話等で相談事も施している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常の関わりの中から気づきを見出し、その方に寄り添う支援を心掛けている。	入浴時など1対1でリラックスして話せる場を大切に、会話の中から訴えたいことを見逃さないよう注意し、得た情報はミーティングにて共有されています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。 ご家族様、ケアマネジャーからも情報提供を頂き情報収集に努めている。	アセスメントの際、センター方式のシートをご家族にも記入してもらい把握に努められています。3ヶ月、6ヶ月をベースに見直す機会も設け、新たに追加した情報も色を変え、分かりやすいようにしています。	全てのご利用者の生活歴の記録に対して、継続して定期的に見直す機会を設けられることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、両ユニット共有で利用者様の情報把握し業務にあたっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同志で話し合ったり意見交換しモニタリングを修正があればプラン変更につなげている。	居室担当が毎月モニタリングを行っており、ミーティングの際に情報交換を行っています。状況の変化に合わせてケアプランの見直しも行っているほか、ご利用者に合わせ3~6ヶ月に1度、サービス担当者会議を開催し、ケアプランの検討を行っています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、職員がいつでも読める様に保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを行い、職員同志話し合ったりして取り組んでいる。 状況変化に応じて受診時同行も行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の地域行事、地区行事、小学校、中学校行事参加させて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に協力して頂き行き、受診時医療連携書を書き医師との連携を図っている。	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医の受診を基本として、定期受診は基本的にご家族にお願いしており、緊急時には職員も同行しています。医師へは受診時医療連絡表を使用し、ご利用者の状況が分かり易いようにされています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご家族に連絡をし必要に応じて医療機関に情報を提供し支援を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が入院中ケアカンファレンスを医療関係の人と行いソーシャルワーカーとの連携を密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでターミナルケアが出来ない事を説明している。	全てのご家族に契約時に事業所の重度化した際の方針について説明し、ご理解を得ています。また、ご利用者の状態に合わせて必要時に再度、ご家族との確認の機会を設けています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の方に協力して頂き、年2回行い、常に現場で実践活用出来るよう努力している。	消防署職員より、心肺蘇生やAED使用の研修を実施するなど適切な対応がとれるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、地域の方にも参加して頂き協力体制を取っている。	年に2回、火災や地震を想定した避難訓練も行われているほか、地域の方にも災害時の協力要請も行いました。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを留意してその人らしい生活が出来る様に対応に努めている。	個人情報の取扱いに関しては、プライバシーポリシー・個人情報の利用目的に沿った対応がされています。また、法人でも接遇に関する研修を行い、声かけや写真の使用の同意などの配慮も行われています。	事業所広報に掲載する写真の同意については、書面で契約時に同意を得られることを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい様な環境作りに努めたり、日常の関わりの中から見つけ出せるようにする。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援したいと思うものの入浴の時間等職員の決まり事を優先してしまう事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で行える人には行って頂き、出来ない人には一部介助で行っている。 毎月定期的に訪問理容を利用して頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けをして頂いたり、嫌いな物は別な物で対応し、スタッフと共に準備参加して頂いている。	ご利用者の状態に合わせ、可能な範囲で食事の準備や後片付けも職員と一緒にしています。また、外食の機会やホームでおやつ作りなども行い、ご利用者に食事を楽しんでもらえるように工夫しています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック、その方に合った食事体系を行い水分量のチェックも随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にイソジン液でうがいをして頂き、食後は歯磨き、義歯に関しては液にて消毒している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な人には声掛けし行っている。 排泄チェック表を記入している。	排泄チェック表による排泄パターンを把握、さりげない声かけでの誘導を行うことで、リハビリパンツの使用を減らす試みがされています。お通じに関しては毎朝のミーティングで確認し、下剤の使用をコントロールしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員で話し合い下剤の量を調整したり、家族に受診を依頼したりしている。 水分補給をまめに行い身体を動かすよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間に関しては職員の決まりごとになってしまう事も多々ある、できるだけニーズに応じられる様に努力している。	入浴は基本的に1日おきとなっておりますが、一律の対応ではなく、ご利用者の好きな時間に入れるよう支援されています。また、入浴を拒む人に対しては、タイミングや声かけの方法などを職員間で共有し、無理強いせずに誘導されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息については居室や座敷にて声掛けをしたりして支援している。 季節によっては布団を干したり居室の室温調節を行ったりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を活用し、変更時は申し送りで全スタッフが周知している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用したり日々のレクなどの関わりの中で見つけ生きがい持てる様な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は近隣へ散歩に行ったり又バスハイク等もしている。</p>	<p>紅葉見学やぶどう狩りなどの行事としての外出、買い物や外食などの日常的な外出支援など、屋外に出かけられるよう支援が行われています。</p>	<p>ホームの外出行事の際には、ご家族にも案内を出し、一緒に外出できるように検討されることを期待します。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は職員が預かる様にして必要な時は使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話依頼があれば家族に了解を得て行っている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>装飾したり、季節に合った花を飾ったりし季節感を大切にしている。</p>	<p>居室に居ながらにして四季を感じられるように配慮し、花や行事に関連する装飾が程よくされています。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人1人ひとりの指定席への執着心があったりして話す相手も決まっているが大勢の方と交流出来るよう座席、食席を工夫している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今まで使っていた物や布団を使用させて頂き、その人らしい住まいの環境作りにも努めている。</p>	<p>居室内はご利用者が使い慣れた物を持ってきてもらい、「その人らしい空間作り」の工夫がされています。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室に入居者様の目印や貼り紙も大きく分かり易いように工夫している。</p>		